

1 学年・教科 中学校1～2年 技術・家庭科、総合的な学習の時間

2 テーマ 「高校・地域と連携した、生産から販売までを意識した農業体験」

3 指導計画

時間	ねらい	学習活動	評価			
			知	思	態	評価方法
1 ～ 2	主体的に生物育成の技術について考え、理解しようとする態度を養う。	農業系の高校と連携して農作物を栽培する。(①種まき)〈技術・家庭〉			○	行動観察
	生物育成の技術に込められた問題解決の工夫について考えさせる。	農業系高校の先生や生徒に、農作物を栽培する上で気を付けていることを聞く。〈技術・家庭〉		○		ワークシート、発言
3	主体的に生物育成の技術について考え、理解しようとする態度を養う。	農業系の高校と連携して農作物を栽培する。(②植え替え)〈技術・家庭〉			○	行動観察
4	主体的に生物育成の技術について考え、理解しようとする態度を養う。	農業系の高校と連携して農作物を栽培する。(③収穫)〈技術・家庭〉			○	行動観察
5	生産者の視点で課題を設定し、解決の見通しを持たせる。	生産者の視点で販売する際に課題になりそうなことを考え、道の駅訪問時に見学したいことや質問したいことを考える。〈総合〉		○		ワークシート、発言
6 ～ 7	課題を解決しようとする主体的な態度を養う。	地域にある道の駅を訪問し、見学と質問をする。〈総合〉			○	行動観察、発言

8 本時	道の駅見学で得た情報を、わかりやすく整理・分析できるようにする。課題を解決するための方法を、生産者と販売者の両方の視点から考えさせる。	道の駅で得た情報をもとに、課題を解決するためにどうしたらよいか考える。〈総合〉	○	○	ワークシート、発表
---------	---	---	---	---	-----------

4 期待できる基礎的・汎用的能力

- (1) 課題対応能力（課題発見、計画立案、情報の理解・選択・処理）【課】
- (2) キャリアプランニング能力（多様性の理解、将来設計）【キ】

★小・中・高接続のポイント

- ・小学校の農業体験や販売店見学では、それぞれの職業について学習した。中学校では、それらの職業が関わり合っていることを学び、職場体験等で実際に体験していく。
- ・高校との連携を通して、実業系の高校では職業に直結するような学習をしていることを知り、近い未来を具体的に考える機会にする。

5 本時の目標

- (1) 道の駅見学で得た情報を、わかりやすく整理・分析することができる。（知識・技能）
- (2) 課題を解決するための方法を、生産者と販売者の両方の視点から考えられる。（思考・判断・表現）

6 本時の指導（8／8時）

	時配	学習活動	指導上の留意点	評価			
			★キャリア教育の視点	知	思	態	評価方法
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・第5時で設定した課題を確認する。 ・道の駅を訪問して感じたことを発表する。 ・学習課題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに設定した課題を全体で共有する。 ・生産者と販売者では立場が違うことに気付かせる。 				
		生産者と販売者の両方の視点を持って、課題を解決する方法を考えよう。					
展開	7分	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の訪問で得た情報を班の中で確認し、わかりやすくまとめたものをタブレットに入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★得た情報の中から適切なものを選択し、わかりやすくまとめることができるか。【課】 ・タブレットでまとめた情報を、班員がいつでも参照できるようにしておく。 	○			発表
	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決する方法を個人で考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどまとめた情報を参考にしながら、各自で考えてワークシートにまとめる。 		○		ワークシート
	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・班の中で発表し合い、考えをまとめる。 ・班としてまとめた考えをタブレットに入力する。 					

	15分	・班ごとに、自分たちが設定した課題と得た情報、課題を解決する方法について発表する。	★立場や視点によって多様な考えがあることを理解することができるか。【キ】		○		発表
まとめ	5分	・将来、自分が地域の農業を盛り上げていく立場になったとしたら、どのようなことに取り組んでいきたいか考える。	★これまでの学習をもとに自分の将来について考えることができるか。【キ】				

★その他

- ・農業についての実践例を取り上げたが、工業や水産業などでも、「高校と連携した体験」と「販売店への見学や質問」を組み合わせることで同様に展開できる。
- ・1人1台端末の良さを活かし、班の情報を共有フォルダにまとめることで、個人で考えるときに、手元にある自分の端末から参照することができるようにする。